

BPW Newsletter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN



2010.8.10
Vol. 99

【特集】

2010年特定非営利活動法人
日本BPW連合会総会
長崎大会

CONTENTS

開催挨拶のメッセージ

長崎クラブ会長 鶴田雅子
法人化後 初の全国大会・総会
長崎で開催

- ・「長崎宣言」を採択
- ・2010年日本BPW連合会総会
- ・基調講演 要旨
- ・BPWパートナーシップ・エバリュエーション賞
- ・ヤングスピーチコンテスト全国大会
- ・分科会報告
 - JWLI(女性指導者育成事業)
フォーラム 東京と福岡で開催
2010年度ブロック研究会 9月
から各地で開催
 - CSW(女性の地位委員会)
インターン募集
 - APEC WLN(女性リーダーズネットワーク)会合 9月に開催
会報41号広告掲載一覧

日本BPW連合会ニュースレター
発行人：松原敏美 広報委員会編集

日本BPW連合会 事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木
2-21-11 婦選会館 303
TEL.03-5304-7874
FAX.03-5304-7876
e-mail: office@bpw-japan.jp
ホームページ:
<http://www.bpw-japan.jp>

開催挨拶のメッセージ

特定非営利活動法人日本BPW連合会 長崎クラブ会長 鶴田雅子

1958年に創立され、50年の歴史を経て、2009年に特定非営利活動法人となりました日本BPW連合会。その再スタート第一回の総会を西洋文明伝来の地、長崎で明治維新の竜馬人気に沸く今この時に開催させていただいたことは長崎人の喜びであり誇りです。全国の会員の皆様にはこの西の果て長崎まで集っていただきましてありがとうございました。



基調講演は 長崎でNGOのリーダーとして活躍する「NPO法人DV防止ながさき」理事長、中田慶子さんに「出会いで開いていく扉」と題してその半生を伺いました。彼女の「扉をひとつ開けば・・・新たな人との出会いがあり、次の扉へと導かれてきます。夢は、思いもかけない方法で、いつのまにか現実になるのだと、実感しています。」という言葉の中に、女性として社会人として困難に立ち向かっていく女性の頼もしさを感じたのは私だけでしょうか？

ヤングスピーチコンテストに出産を経験した方が二人（残念ながらうち一人は長崎大会を欠席されましたが）もいらっしやったのも嬉しい驚きでしたし、出産、育児をしながら勤務を続けることがやっと当たり前になってきた現実を感じ取ることができました。新しい波はもう足元まで迫ってきています。NPO法人として再スタートをした最初の全国大会であり、分科会での討議の結果が長崎宣言となったことは望外の喜びです。これからのクラブの運営にあたって指針としたいと存じます。懇親会には議会の忙しい中、中村県知事、田上市長がそれぞれワインを持って臨席いただいたのも大変嬉しいことでした。BPWパートナーシップ・エバリュエーション賞は、この長崎で男女の固定的役割分担意識にとらわれない市長に贈呈することができたのです。

この長崎大会が、参加された方々にとって、男女共同参画社会実現にむけてのさらなる一歩として、また今後も女性NGO団体として、働く女性が抱える諸問題を解消していくための推進力となることを希望してやみません。昨年までとは開催時期も異なり、法人化後初めての大会とあって、どこまでを従来に倣って開催し、NPO法人としての法律による規定がどこまで厳密に必要であるのかの判別に苦しみながらも、無事終了できたのは松原理事長、高嶋専務理事はじめ執行部役員の方々のおかげと感謝しております。また田平実行委員長はじめ長崎クラブ会員一同の、時には仕事も二の次にした努力の賜物と感謝するとともに、この頼もしくも素晴らしい仲間を誇りに思います。全国の会員皆様には行き届かなかったこともあったかとは存じますがどうぞご容赦いただきますようお願い申し上げます。来年、山梨で再会することを楽しみにしております。

法人化後 初の日本 BPW 連合会大会・総会 長崎で開催 2010年6月12日～13日

特定非営利活動法人日本BPW連合会長崎大会が、2010年6月12～13日、長崎市内、ロワジュールホテル長崎、2階クリスタルハーモニーで開催された。大会は担当の長崎クラブ鶴田雅子会長の開会挨拶、松原敏美理事長の挨拶で始まった。一日目は基調講演(p.3)、ヤングスピーチコンテスト(p.4-5)、その後場所を3階に移し、3つに分かれての分科会(p.6-7)が2時間余りにわたって行われ、活発な意見が交換された。引き続きセレモニーが催され、BPWパートナーシップ・エバリュエーション賞の発表(p.4)で、田上長崎市長に贈呈された。その後和やかな交流会と続いた。二日目は、早朝より各常任委員会・ブロック委員会合が、初めての試みとして開かれ、続いて法人化後初の2010年日本BPW連合会総会が開かれた。

松原敏美理事長のあいさつに始まり、高嶋洋子専務理事の全体進行で、議事はスムーズに進行し、最後に「長崎宣言」が採択された。



次期大会担当クラブへの引き継ぎが行われ、深沢公子山梨クラブ会長から挨拶があった。総会は余語三枝子副理事長より閉会の言葉で幕を閉じた。

一日目の分科会における話し合いでの提言をもとに、行政機関に対しての行動とする「長崎宣言」を作成し、議論のうえ、一部修正した宣言を最終日13日に全員一致で採択した。この「長崎宣言」は6月22日、松原敏美理事長より、男女共同参画局武川恵子審議官へ手渡された。

2010年度特定非営利活動法人日本BPW連合会

長崎宣言

日本BPW連合会は2010年6月13日総会において、
男女平等と男女共同参画社会の早期実現を目指し、次の提言を採択する。

1. 私たちは、少子高齢化による人口減少及び自殺や過労死の増加などの危機的状況に対する打開策として“ワーク・ライフ・バランス”が提唱されていることを認識し、その推進に際し、“ワーク・ライフ・バランス”を有償労働と無償労働とのバランスとしてとらえた制度の充実を図ることが急務であると考えます。
そのために、男性が育児や家事などの無償労働に参加しやすくする男性育児クォータ制の推進、学校教育におけるカリキュラムへの配慮、社会における男女の固定的役割分担意識の変革への取組を求めます。
2. 日本はILO条約などの国際条約を批准しているにもかかわらず、その国内法的効力を消極的に解釈する見解も多く、女性が自らの権利を実現することが極めて困難な状況にある。
私たちは、男女賃金格差の解消(同一価値労働同一賃金の原則)を実現するために、様々な国際的人権条約を国内において生かす国内法の整備及び環境整備を求めます。
3. 社会を変えるのは、社会の構成員である私たちの責任であることを踏まえ、私たちBPWは男女共同参画社会の実現を目指し活動を行ってきた。
今後、BPWは強いネットワークの拡大に努めると共に、男女共同参画社会基本法第20条に基づき、国及び地方公共団体に対し、男女共同参画の理念を社会に浸透させるため、更なる情報の提供及び適正な支援を講ずることを求めます。

2010 年度特定非営利活動法人日本 BPW 連合会総会
 議長（長崎）大木祥子 副議長 荒木実子
 書記（長崎）秋吉都美・岩本千恵子
 会員数 431 名 委任状を含む出席者数 377 名

基調講演要旨

「出会で開いていく扉 - 私と社会の関わり-」
 NPO 法人「DV 防止ながさき」理事長 中田慶子氏

総会議題

第1号議案 議事録署名人の選出

議事録署名人を議長大木祥子、長崎クラブ鶴田雅子、東京クラブ安陪陽子を全員一致で選出。

第2号議案 議題の承認

議題を全員一致で承認した。

第3号議案 任意団体からの継承について

第4号議案 2009 年度事業報告

上記2 議案を一括して報告し全員一致で承認した。

第5号議案 2009 年度会計報告

第6号議案 2009 年度監査報告

上記2 議案について、「繰越金が決算書と予算書で違う」との指摘があり、調査の結果、決算書頁の編集ミスと判明し、差し替え文書を配布したのち、再度全員一致で承認した。

第7号議案 2010 年度統一テーマ(案)・活動方針(案)

第8号議案 事業計画(案)

上記2 議案を一括して提案。今年度実施する「男女共同参画予算アンケートの内容について、各クラブへも通知していただきたい」との要望があり、それを承認し表決の結果全員一致で可決した。

第9号議案 2010 年度予算(案)

上記議案を提案したところ、「貸借対照表」の明細がわかりにくいとの指摘があり、NPO 法人の会計の収支決算予算の記載の仕方について説明し、今後は各項目に線を引いてわかり易く記載すると回答後、表決の結果全員一致で可決した。

第10号議案 役員を選任について

定数と候補者数が同数であり、総会で確定をいただきたいと、選挙管理委員長より、下記のように、新副理事長、新広報委員長、およびクラブ会長の交代による新理事に波多野慧子、河田英子、志方喜代美、篠崎正美、各氏の報告があり、全員一致で承認し確定した。

基調講演は6月12日土曜日午後1時から3時まで、ホテルロワジール長崎、2階ホールに170人余の参加者を集めて、開かれました。「出会で開いていく扉」と題して中田さんの半生を伺いました。長崎新聞、ケーブルTVの取材も頂きました。



女性の地位向上のために、DVは根絶すべき問題であり、社会の考え方を変えていく必要がある。この活動に至るまでに人生の節目に数々の出会いがあったという。大学で心理学を専攻、東京都職員（心理判定員）として福祉施設勤務。子育てで専門職の目標は早々に挫折。病気がちの中田さんを支えてくれたアパートの大家さんや「私に返してくれなくてもいいのよ。元気になって助ける余力ができたときに別の人に返してくれたらいいのよ」と言ってくれた友人。愛読書「婦人の友」で感銘を受けた鶴見和子さんが審査員をする、あるコンペでの特選受賞。夫のノルウェー留学の直前、「婦人の友」座談会で鶴見さんと再会。「すごい国だからよく見てらっしゃいよ」と励まされて出発したという（著書「私の出会ったノルウェー」ドメス出版に詳述）。

異文化に触れたノルウェーでの生活は、中田さんの人生、政治への関心を開いてくれる経験だった。子供たちの教科書にも感銘。1.デモの写真も掲載され自分の権利は勝ち取っていくという思想。2.異文化理解、少数民族の文化を尊重。3.いじめの対処法も詳述。4.政治を身近なものにと選挙時には立候補者が学校で講演、模擬選挙を実施。5.教科書の中に「一人ぼっち」と「一人でいたい」という両方の「ひとり」が表現されていて嬉しかった。全ての外国人の子供は週4時間母国語で教育を受ける権利があり、中田さんは日本語教師を務めながら、難民や政治亡命の民族の人々とも友人になった。

2010 年度日本 BPW 連合会理事紹介 皆様のご協力よろしくお願いたします

執行役員

理事長 松原敏美（和歌山）
 副理事長 余語三枝子（アリア東海）
 副理事長 深沢公子（山梨）
 副理事長 名取はにわ（東京）【新】
 専務理事 高嶋洋子（和歌山）
 会計 佐藤道子（東京）

常任委員長

企画委員長 土田アイ子（東京）
 組織委員長 鬼塚真子（東京）
 広報委員長 柳下真知子（東京）【新】
 国際委員長 平松昌子（東京）
 財務委員長 藤田ひろみ（福岡）
 ヤング BPW 委員長 大谷美紀子（東京）
 会計監査 今田早百合（山形）

帰国後、市川房枝さんの事務所のかなちゃんから、「やれば。応援するわよ」という言葉で背中を押されビリが落選と思って選挙に出てトップ当選。東京都府中市市議会議員(生活者ネットワーク)2期8年を、かなちゃんと二人三脚で務める(共著「フツの女性が選挙で勝つ方法」童話館出版)。

相馬雪香さん、加藤シヅエさとの出会いにも刺激を受けた。中田さんは、その10数年後に「DV防止ながさき」で第10回加藤シヅエ賞を受けている。

2000年長崎に転居。DVの活動をしている団体がなく「DV防止ながさき」を設立。DVを容認しているのは私たちの社会であり、社会を変えていかないとDVはなくなる。被害者の支援だけでなく、若い世代への啓発活動をと学校(高校、大学)へ出前授業を始め、6年間でトータル約5.3万人に授業をした。若い人々の交際の中でも夫婦間と同様のDVがある。特に携帯を使用しての束縛などが顕著。性的暴力も多く性感染症、妊娠中絶、望まない結婚につながっている。(長崎県では年に1.2万人の出生数に対し3300件以上人工中絶がある。全国では107万人の出生に対して24万件の人工中絶)。性的自己決定権が確立されていない。

暴力予防教育は、将来のDV被害を防ぐだけでなく児童虐待の防止につながる。被害を自覚することで深刻化を防ぎたい。高校生のアンケート調査も行っている(詳しくは「新版デートDVを知っていますか」NPO法人DV防止ながさき編)。交際している高校女子の約2割がDVを経験、また交際相手を怖いと感じている女子も多い。若い世代もまだまだ古いジェンダー意識にとらわれているのが現実である。

DVが無い社会とはどういう社会だろうか。どんな理由でも暴力を容認しない社会であり、性別その他に関らず平等・対等で、お互いが尊重される社会である。参加の機会均等が保障され、再挑戦が可能な社会である。誰にとっても安心できる社会がつまりはDVのない社会である。DV根絶までは遠い道のりだが、仲間たちと心をひとつにしてがんばっていききたい。



2010年BPWパートナーシップ・エバリュエーション賞
長崎市長 田上富久氏

2010年日本BPW連合会長崎大会のパートナーシップ・エバリュエーション賞は、長崎市長田上富久氏に贈られました。男女の固定観念にとらわれず、市民と行政の良好なパートナーシップを築き、子育て支援を推進し、女性が社会参画しやすい環境づくりに取り組まれている田上市長は、被爆都市の市長としても、核兵器の廃絶と平和を世界に向けて発信し続け、その姿勢は、BPWの活動目的と重なる点が多く、今後ともさらに男女共同参画社会推進に努めていただけたと考えています。



第7回ヤングスピーチコンテスト全国大会審査結果



日本BPWは、2002年国際BPWメルボルンコンgresでのスピーチコンテストで、自分の意見や考えを気軽に堂々と発表している他の国々の人に印象付けられ、どんな場面でも気軽に自分の意見をわかりやすくスピーチできる、これからの女性を育てることをBPWの社会貢献のひとつと考え、このコンテストが実現しました。7回目となった今年も、全国の5つのブロックから選出された、様々な分野で仕事を持つ4人の女性(1名欠席)がそのスピーチを披露しました。

最優秀賞 吉武悠貴さん「仕事は”人”」

西日本ブロック代表

優秀賞 稲葉文恵さん「私と仕事」

北海道・東北ブロック代表

ヤングBPW賞

秋山愛さん「仕事の基本」(関東/山梨ブロック代表)

田中千鶴さん「私と仕事」(近畿ブロック代表)

審査員 各クラブ代表・松原敏美理事長・(選評)

前田きみ子長崎県男女共同参画センター長

最優秀賞の吉武悠貴さんは只今二人目の産休中のシステムエンジニア(スピーチ内容は次頁)。優秀賞の稲葉文恵さんは今春、放送局の記者として駆

け出した新社会人。学生時代、議員インターンシップに参加した経験が、大きく自分の将来を変えたということです。中部ブロック代表の高嶋舞さん「人の元気が地域の元気を創る」は、残念ながら都合により大会を欠席されました。

最優秀賞受賞 吉武悠貴さんのスピーチ

皆さん始めまして。私は吉武悠貴と申します。システムエンジニアというお仕事をしています。今年で入社10年目になりました。去年は育児休暇から復帰して時短制度を利用して働き、今は二人目の産休を取得中です。

私は数年前まで、仕事や会社に対してたくさんの迷いがありました。この仕事は自分に合っているのだろうか。会社の将来は大丈夫だろうか。育児休暇後の復帰は可能なのだろうか。そんな想いで日々の毎日を過ごしていました。

そんな中、私はIR(イール)という女性の学びのネットワークと出逢いました。そしてここでたくさんのお話を学びました。一番の大きな点はロールモデルの重要性です。IRには子どもがいたらバリバリに働き、家庭と仕事以外にも自分で活動や勉強をしている方が多く、仕事復帰できるかしら、なんて私の心配はふっとびました。

また、メンバーとの勉強会や勝間和代氏の講演会活動などを経て、仕事について一つ気づいたことがありました。私はただここではないどこかを求めているだけではないだろうか。仕事や会社が悪いのではない。あう、あわないの問題ではない。まずは自分が、どういう姿勢で仕事に向き合うのか、それが重要なのだということ。

そこで、私は昨年、社内で女性の会を立ち上げました。コミュニケーションの促進、情報・状況共有の場、ひいては会社への要望・提案提出が目的でした。その名もいきいき女子部。月に一度の定例会を行い、まずは自己紹介、プロジェクト紹介から始め、社内の課題や問題、変えていきたいところの洗い出しを行いました。

ここで重要視したのは、会社に対して何をしてもらうか、ではなく、自分たちで何ができるのか、ということでした。自分たちで何ができるのか。そしてどう、自分を、周りを変えていけるのか。そこが大切なのだと思います。

私たちは活動として、一つの課題に焦点を当てて話し合いを行い、また、社長との懇談会や、コーチングの講師を呼んでの社内セミナーも開催しました。通常なかなか集まることのない多くの社員が参加してくれ、大きな反響を得ることができました。

私たちは自分と、周りを動かすパワーを持っていると思います。ため息ばかりついてないで私たち女

性が強く、明るく、笑顔で働いていけば、きっと周りも変わっていくはずですよ。私たちにはその、パワーがあります。

かつてIRに入ったばかりの時、私にとって天職は何か、自分には何が向いているのか、そればかり考えていました。メンバー内で飛び交う話題は、自分が会社に対してできることは何か。自分の使命は何か。私はいつもそこにギャップを感じていましたが、次第に、自分には何ができるのかを考えるようになっていきました。

実は私、一ヶ月前に二人目を出産しました。さあ、これから一年間、育児休暇中の私の仕事は何でしょうか。

私は昨年、週末を利用してNLPを学びました。NLPでは、脳の仕組みを利用したコミュニケーションスキルや効果的な目標達成の方法、イメージトレーニングやカウンセリングの手法などを学ぶことができます。

そして私は今、学んだことをもとに心の風邪を予防する場所を作ろう、と思っています。通常、軽い咳や風邪くらいでは病院に行かない人が多いかと思っています。同じように、イライラやうつうつ、悩みを持ちつつ病院に行くほどではない心の風邪気味の人が世の中にはたくさんいます。そこで、まずはそんなお母さんたちと集まれるようなコミュニティを作ろうと思っています。コミュニケーションをはかるお茶会やイベントを実施したり、学んだNLPによるちょっとした心のお話、ひいては小さなセミナーができたりすればと考えています。そのために今後はさらにNLPの学びを深め、また育児休暇を利用して交流分析やカウンセリング手法なども学ぶ予定です。

何の仕事をしているのか、が重要なのではなく、どんな人が、どんな姿勢で何のために仕事をするのか、それが重要なのだと思います。この人と出会えてよかった、この人とまた一緒に仕事がしたい、そう思われる人に私はなりたい。そして、私には何ができるのか、常にそう考え動くことが私にとっての仕事なのだと思います。誰もが、自分を、そして周りを変えるパワーを持っている。このことを忘れずに生きていきたいと思っています。ご静聴ありがとうございました。



ヤングスピーチコンテスト募集要項

募集対象：20～35歳女性 就職活動中の学生または仕事をしている女性(職種は問わない)。

スピーチ時間：5分以内(スピーチなので原稿を見ずに)

内容：キーワードに沿ったテーマ。自己PRや社会活動等について、日本語で発表。キーワード：「私と仕事・職業」

審査基準：発表内容・話し方・将来性

国内5ブロックで代表を選考し最終選考を全国大会(総会)で開催

第1分科会

組織拡大の戦略と活動の多様性を探る
～新たな環境とグローバル化の中で～

コーディネーター：遊佐美由紀（仙台クラブ）
報告者：松原敏美（和歌山クラブ）
記録：長沼邦子（長崎クラブ）
参加人数：24名（非会員 0名）

目的 持続可能な団体であるために、とるべき戦略を考える。キラリと輝く存在感のある多様な活動をする戦略を考える。国際につながる組織のメリットを十分に活かす戦略を考える。キーワードは 持続可能性 輝く存在感 世界とつながる

討議内容
若い人が入会してこない状況というのが、共通の悩みであった。
例会の持ち方の工夫として、福岡クラブでは若い会員のチームで年に2回の例会を自主企画し当番で実行している。これにより、若い会員同士の繋がりが強化される。先輩会員はそれを側面から支え見守り、成果をほめるという方法をとっている。このことにより、クラブの会員構成のバランスが保たれ、将来にわたり持続可能な会になるよう努力している。
また、各クラブの状況は、クラブごとに様々でありどこに問題点があるかについて、クラブ内でよく話あう必要がある、という認識で一致した。
クラブの活動を活性化することと、会員増加を図ることとは、車の両輪であるということも、皆の認識に違いはなかった。
地域において存在感のある団体になるためには、存在感のある対外的な活動をするべきで、それも一つのテーマ、例えばワーク・ライフ・バランス、男性の育児参加、女性リーダー養成講座、等のテーマを決めて、それに沿った切り口の活動を根気強く繰り返し行うことが効果的である。
これはと思う光る人材を講師に呼んで、その縁を逃さず会員に誘う。
年齢の若い人を迎えた場合も、その人の意見や経験から何かを学ぼうとする姿勢を常に示すことが大事である、会員の年齢が高い場合、他人から学ぶものが既にないという態度をとりがちで、それが会の雰囲気になることは、絶対に避けねばならない。
クラブの意見や調査の成果は、形にして対外的に発表する等すること。
他のクラブが担当する講演会、シンポジウム、交流会には積極的に参加して刺激を受け、自分のクラブにもち帰る。
連合会が内閣府等との共催で事業を受けた場合、積極的に協力し、クラブ独自では実現が難しい講師やパネリストの参加を可能にして、地域で存在感をアピールすることを考える。

世界とつながっているメリットを活かし BPW 連合会と、各クラブが連帯感をもってできる事業を計画することが大事である。
社会的に活動していく。

提言 国、地域の構成員として、キラリと光る存在感を發揮した活動を継続し、男女共同参画社会の実現や、働く女性の地位向上のために、国及び地方自治体に対し、適切な提言を行う活動を展開する。

第2分科会

賃金格差は解消できるか？ ～同一価値労働同一賃金の原則とその先にあるもの～

コーディネーター：林弘子（福岡クラブ）
報告者：藤田ひろみ（福岡クラブ）
記録：岩本千恵子（長崎クラブ）
参加人数：34名（非会員 2名）

目的 BPW-International は 2009 年から各国支部・会員に Equal Pay キャンペーンの実施を呼び掛けており、4月19日を Equal Pay Day とした。このような動きの中、日本でも拡大する所得格差やワーキング・プアの増加が問題になっている。この背後にある派遣労働者や女性労働者の諸問題 日本の曖昧な法制度(労基法4条、パート労働法、雇用機会均等法、国民年金の3号被保険者制度など) 国際社会基準(ILO100号条約、女性差別撤廃条約など)とのギャップなどについて考え、BPW が社会にしめす提言をまとめたい。

討議内容
憲法14条(法の下での平等)すべて国民は、法の下に平等であって、人権、信条、性別、社会的身分又門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。
・労基法草案と労基法4条の解釈をめぐる問題
・国際条約とILO加盟
・同一価値労働同一賃金は職務評価
・男女平等社会の実現において、
・国内では「労基法第4条には限界があるので正すべきである」と40年以上言われ続けILOからも同法改正を箴言。
・現実的な問題として、女性の管理職が少ない。保育士に男性がいない(保育士は女性の仕事、そのため低賃金であり男性が保育士にならない)つまりは、女性の仕事は賃金が安くて当たり前、といった差別が行われていると考えられる。
・根本的な所をきちんと整理していく必要があり、女性議員を送り出し改正への取り組みを図らないといけない(女性議員が他国と比べると少なすぎる)
・女性自身も会社との話し合い(労働組合への参

- 加など)に積極的に参加し発言する必要がある
- ・メディアに流されることなく、目を向け、自ら勉強し取り組む姿勢をもち、大学においても指導すべきである。
 - ・社会はグローバル化の波にのまれており、株主配当ばかり重んじられ、いったい何のための会社なのか再考の時期にある。
 - ・今後は労働者のことを主に考えていかなければならないのではないかと・・・?
 - ・しかしながら、同一労働同一賃金でも同一価値労働賃金でも格差がなくなるわけではない

提言 日本はILO条約などの国際条約に批准しているにもかかわらず、司法はその自動執行力を否定し、女性が自らの権利を得ることは極めて困難な状況である。私たちは、同一価値労働同一賃金の原則を実現するためには、国内法の整備が必要であり、合わせて様々な国際的人権条約を国内において生かしていく環境整備の実現を提言する。

第3分科会

男性のためのワークライフバランス推進のために ～幸せな男性を増やす戦略を考える～

コーディネーター：平松昌子（東京クラブ）
報告者：名取はにわ（東京クラブ）
記録：佐野純子（長崎クラブ）
参加人数：32名（非会員 5名）

目的 経済活動が成熟している日本にとって、生活の質を向上させることが急務となっている。その為の最強の処方箋がWLBである。未だに働き手の中心が男性であるので、男性のWLBを推進するために何ができるか協議する。

討議内容

- WLBの現状について。
- ・幸せな男性を増やす戦略として男性のWLBを推進し、仕事と生活の調和を図りワーキングプアの絶滅と健康で豊かな生活を実現することを目指している。
 - ・賃金の発生する労働を有償労働、賃金の発生しない労働を無償労働(家事・育児・地域活動など)と定義した場合、有償労働の男女比は女性：男性=4：6だが、無償労働の9割は女性が担っており、現状では働く女性にとって重い負担となっている。
 - ・働く女性の余暇時間は圧倒的に短く、女性の専業主婦志向が強まっている。

4つのグループに分かれディスカッション

議題：男性の長時間労働を止めて家事・育児(無償労働)に参画せよ！という機運が高まっているが、男性は無償労働をやりたくない。そこで、男性のWLBを進めるために女性に何ができるのか？

グループ1の発表

- ・それぞれの家庭環境で違ってくるが、若者たちは家事・育児に参加している者も多い。
- ・若い男女の家事力・生活力の向上にシニア世代の女性が協力することが必要。

グループ2の発表

- ・成長と共に性差が広がっている。
- ・親たちの世代に男性が家事・育児に参加する事への抵抗がある。
- ・生活時間を選べる社会体制が必要である。

グループ3の発表

- ・企業のトップの意識が変わらないとWLBは進まない。
- ・制度を作り、長時間労働を規制する。(意識改革を推進するより制度の充実を図る方が近道ではないか?)
- ・家庭生活力は生きていく上で不可欠のものであり、一人ひとりがその力を高める教育が必要。

グループ4の発表

- ・企業へWLB推進の努力を徹底させる。
- ・育児や介護による休暇を取得した男性の情報を発信する。
- ・WLBを無視した男性は悲しい老後・死に目を迎えることになるだろう。

まとめ

- ・今現在、日本は自殺や過労死の増加・人口の減少・少子化高齢化などの様々な社会的危機を抱えた状況にあり、それを改善する一つの処方としてWLBを進めることは男性にとっても女性にとっても有用である。伝統的価値観を改め一人ひとりの家庭生活力の向上を図る教育、国の制度や企業の体制作りを進め長時間労働を減らすこと、などを通して家庭内での無償労働と有償労働の男女比を変えていくことが急務だ。
- ・また、シニア世代の男女が意識を変え、若い世代のWLBを支え見守ることも必要である。

提言 1)男性が家事・育児に参加しやすくなるような制度の充実を図る。(クォーター制など) 2)WLBの重要性を認める学校教育を進め、かつシニア世代は若い男女のWLBの実践に協力する。



JWLI フォーラム 東京と福岡で開催

Japanese Women's Leadership Initiative
(日本女性指導者育成事業)

2010年6月27日・29日

日本 BPW 連合会では、アメリカ・ボストンの日系女性事業家 厚子・東光・フィッシュ氏が、社会の指導者として活躍を目指す母国日本女性たちを支援する目的で立ち上げた「JWLI フェロシップ計画」に連携し、2009年より JWLI フェローを公募、選考しボストンのシモンズカレッジでの研修に派遣してきた。

今年はフェロシップ計画に加え、米日財団からの資金を得て、6月27日は東京の「女性と仕事の未来館」4階大ホールで、また29日には、福岡の「アクロス福岡」4階国際会議場で、内閣府男女共同参画局後援で、JWLI フォーラムを開催した。東京では60名以上が、福岡では178名が参加し、改めて NGO に対する関心の深さを実感するフォーラムとなった。

第1部では、日本の松原明氏(NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会副代表理事)が日本の NGO の現状とこれから解決していくべき課題(資金調達の難しさなど)についてコメントし、その後、ボストンからの2名のスピーカーからは、ポール・グローガン氏(ボストン財団最高取締役)がアメリカ社会における NPO の果たす役割を歴史的経過も含めて報告し、パトリア・デイトン氏(シモンズカレッジ・ジェンダー研究所所長)が、効果的な NGO 運営方法とその中で女性が重要な役割を果たしていることについて報告された。

第2部では、会場から集めた質問に答える形でのパネルディスカッションを行い、有意義な議論が交わされた。最後に JWLI 事業の発案者である厚子・東光・フィッシュ氏から JWLI の趣旨などについてコメントをしていただいた。

東京、福岡とも、ほぼ同じプログラムで進行した。ともに開会の挨拶は松原理事長がつとめ、第2部のファシリテーターは東京が平松国際委員長、福岡が黒崎前会長がつとめた。閉会の挨拶は東京クラブ安陪会長、福岡クラブ篠崎会長がつとめた。

JWLI フォーラムの後、これまでボストンでの研修に参加した JWLI フェローが集まって、初の JWLI フェロー同窓会を、東京プリンスホテルのレストランで開催した。



JWLI フォーラム

あなたが元気になる！NGOが変化をもたらす時代
～女性のリーダーシップの役割～

開会の挨拶 松原敏美 日本 BPW 連合会理事長

第1部 報告

「日本の NGO の課題」
松原 明 NPO 法人シーズ 副代表理事
「アメリカで NGO が社会に果たしてきた役割」
ポール・グローガン ボストン財団最高取締役
「NGO の効果的運営と女性のリーダーシップ」
パトリア・デイトン シモンズカレッジ・ジェンダー研究所長

第2部 パネルディスカッション

「今、なぜ NGO が求められているか」
～して欲しいではなくて、何が出来るか～
ファシリテーター
東京：平松昌子 日本 BPW 連合会理事国際委員長
福岡：黒崎伸子 日本 BPW 連合会前会長
助言者 厚子・東光・フィッシュ Fish Family 財団理事長
パネリスト 第1部の3名の報告者

総括発言 厚子・東光・フィッシュ Fish Family 財団理事長

閉会の挨拶

東京：安陪陽子 日本 BPW 連合会東京クラブ 会長
福岡：篠崎正美 日本 BPW 連合会福岡クラブ 会長

JWLIフェロ同窓会



JWLIフェロ同窓会に参加して
JWLI フェロー第2期生 塩崎智子

2007年平松昌子国際委員長の参加で始まったこの事業は、第3期でフェローは11人になりました。また、交渉を続けた黒崎伸子前会長の熱意と人柄がフィッシュ夫人の心を動かし、第3期からは法人化を条件に、日本 BPW 連合会が事業のパートナーとなりました。そして事業は、さらに進化を続けています。私が参加した第2期は、受け入れるボストン側も手探りのようで、また私たちも求められていることを明確に理解できていなかったような気がします。

昨年5月30日、婦選会館でのフィッシュ夫人の講演「NGOの役割 - アメリカの現状 - 女性たちがその中で果たす指導者的役割について」からJWLIへの思いを知ることが出来ました。日本人としてアメリカから日本を見ると、女性がまだまだ社会を動かす大きな力にはなっていないと感じられ、日本女性が社会を動かす人材となることを願い、この事業を発案されたということをお知らせして実感しました。

11月、フィッシュ夫人来日の際に、初めて1期から3期までのフェローが集まりました。これを機に同窓会が結成され、メーリングリストもできました。

先日のフォーラムは、同窓会として参加する初めてのイベントであり、10名全員(1名は未加入)が揃いました。フィッシュ夫人だけでなくデイトン教授も交えての同窓会を開く機会を頂き、一同感謝しています。

同窓会は東京プリンスホテルの中華レストラン『満楼日園(マロニエ)』で行われました。食事会の前に、都合で早く帰る4名から各自の近況やフォーラムの感想を話しました。話題が、先日施行された改正貸金業法とクレジットカードに及んだ時、フィッシュ夫人が「私は主婦でクレジットは家族カードだから、夫の口座から支払われる」と言われました。「厚子さんが主婦??」、長い間第3号被保険者で、経済的自立を「自立」の目標にしてきた私にとっては新しい気づきでした。「経済的自立だけが自立じゃない?!」という実感とともに、生きているステージの違いを感じました。

Facebookで情報交換をしていくことも決まりました。IT習熟度には個人差があり、各自が自在に利用できるまでにはまだまだ時間がかかると思いますが、お互いに情報を共有していきます。

2011年度も募集します! JWLIフェローシップ事業

これからの日本女性に求められるリーダーシップ育成研修

募集要項は来年ホームページで発表されます。

2010年度の募集要項を参考にされて下さい。



<http://www.bpw-japan.jp>

日本BPW連合会の最近の活動から

「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」が今秋に活動開始です

地方発! シンポジウム「女性と経済」

～地域を変える女性起業家たち～
女性の元気が日本経済を元気にする!

平成22年11月中旬(土)
午後13時～午後16時30分
開催地: 仙台市

詳細は決定次第、日本BPW連合会ホームページでお知らせします。

各都道府県及び政令指定都市

「ワーク・ライフ・バランス」アンケート調査進行中です

日本BPW連合会では、男女共同参画社会実現のための取組を充実するために、「男女共同参画予算プロジェクト」を設置しました。これまでも男女共同参画社会実現のための一助としてワーク・ライフ・バランスに関する連続シンポジウムなどを実施して参りましたが、男女共同参画予算プロジェクトでは、ワーク・ライフ・バランス関連予算等の充実を国に求める要望書をまとめることを目指しています。

このため、各都道府県及び政令指定都市におけるワーク・ライフ・バランス促進のための関連施策や予算を分析し、要望書に反映させることを目的に、各都道府県及び政令指定都市の「ワーク・ライフ・バランス」担当部署にアンケート調査をお願いしています。

APEC女性リーダーズネットワーク
(WLN)会合が
9月に開催されます

APEC WLN 会合とは?

APEC加盟国・地域の男女共同参画社会の実現のために、女性たちの経済活動の発展に寄与することを主な目的としたAPECの非公式会合。1996年に発足した産業界、学界、行政、民間団体などの女性のリーダーからなるネットワークで、APECへの政策提言の場です。第15回WLN会合(2010年9月19-21日)では、日本BPW連合会が全体会合のシンポジウムを担当します。(APEC WLN 会合概要は12頁参照)



日本 BPW 連合会 2010 年度 **ブロック研究会のお知らせ** 9 月から各地で開催されます！

北海道・東北ブロック研究会

担当：BPW 山形クラブ

「変革への挑戦・・・女性たちのリーダーシップ」

【日時】 **2010 年 9 月 19 日(日) 13 時 00 分**

【会場】 山形国際ホテル 山形市香澄町 3-4-5

【プログラム】

- 12 時 30 分 受付開始
- 13 時 00 分 開会式
- 13 時 15 分 ヤングスピーチコンテスト
「私と仕事・職業」(各クラブ代表)
- 14 時 10 分 パネルディスカッション
「改革への挑戦・女性たちのリーダーシップ」
パネリスト
吉村美栄子 山形県知事
和嶋未希 衆議院議員
舟山やすえ 参議院議員
阿部典子 山形市市議会議員
コーディネーター 佐藤玲子 BPW 会員
- 17 時 00 分 ヤングスピーチコンテスト
講評・審査結果発表
- 17 時 15 分 懇親会

近畿ブロック研究会

担当：BPW 和歌山クラブ

「変革への挑戦 女性たちのリーダーシップ・アドボカシー・行動」

【日時】 **2010 年 10 月 17 日(日) 13 時 30 分**

【会場】 和歌山ビッグ愛 8 和歌山市手平 2-1-2

【プログラム】

- 13 時 00 分 受付開始
- 第 1 部
- 13:30～15:00 講演「脳からみる日本のリーダー～戦国武将とその妻たち～」板倉徹氏
公立大学法人和歌山県立医科大学学長
- 15:10～15:30 ほっと一息
フラメンコギター演奏
棕野悦和氏 / むくのギター教室主宰
和歌山ギター協会会員
- 第 2 部
- 15:30～16:00 ヤングスピーチコンテスト
「私と仕事」(各クラブより選出 4 名)
- 【会費】 300 円(飲み物&お菓子付 当日徴収)

板倉徹氏 1946 年生まれ。1970 年和歌山県立医科大学卒業。1977～79 年まで米国カリフォルニア工科大学へ留学。1994 年～同医科大学脳神経外科教授。2006 年～2009 年同医科大学医学部長。2010 年～同医科大学理事長・学長。「戦国武将の脳」「ラジオは脳にきく」「冬のソナタに学ぶ脳の不思議」「脳の病気の危険信号」など著書多数。また、脳を活性化させる CD も監修。脳科学を生活と結び付けて説く講演は、わかりやすく楽しいと定評あり。学長就任まで続けていたラジオのパーソナリティーも大人気！再開を望む声も多い。

【申込み・問い合わせ先】pw-wakayama@gmail.com
一般の方のご参加も大歓迎です！

関東・山梨ブロック研究会

担当：BPW 山梨クラブ

「変革への挑戦～日本の教育とニュージーランドの教育の違い～」

【日時】 **2010 年 11 月 20 日(土) 13 時 30 分**

【会場】 甲府ホテル 2F 会議室
甲府市北口 1-2-17

【プログラム】

- 13 時 00 分 受付開始
- 13 時 30 分 開会
- 13 時 40 分 ヤングスピーチコンテスト
「私と仕事・職業」
- 14 時 30 分 講演 マクリーンえり子氏
(ニュージーランド語学学校エバコナ)
「変革への挑戦～日本の教育とニュージーランドの教育の違い～」
- 15 時 40 分 ヤングスピーチコンテスト表彰式
- 15 時 50 分 次回担当クラブ挨拶
- 16 時 00 分 閉会
- 【参加費】 無料
- 【問い合わせ・申込み先】 office@bpw-japan.jp
*参加申し込み締め切り
2010 年 11 月 10 日(水)

中部ブロック研究会 (担当 アイヌ東海)

2011 年 2 月 5 日(土)

開催地：名古屋市

西日本ブロック研究会 (担当 北九州クラブ)

2011 年 2 月 12 日(土)

開催地：小倉市

一般の方のご参加も大歓迎です！

2011 年国連女性の地位委員会(CSW)へ CSW インターン募集中!

日本 BPW 連合会では、国際問題に関心を持つ大学生または 30 歳以下の女性を対象に、毎年 3 月、ニューヨークの国連本部で開催される、女性の地位委員会 (CSW) に派遣するインターンを募集しています。これは、日本 BPW 連合会が加盟する BPW インターナショナル (BPWI) が、国連の「諮問的地位」を有する団体であることにより、はじめて可能になるもので、2003 年に第 1 回派遣が行われて以来、今回は第 8 回の派遣となります。

2011 年派遣インターン募集要項

募集目的 国際問題・国連問題に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う若い女性を支援する目的で行われるもので、国連・CSW での各国代表の発言を傍聴する他、国連本部内及びその周辺で行われる様々な関連行事への参加を通して、若い世代の国際的な感覚・知識の育成を目指しています。

期 間 2011 年の第 55 回国連女性の地位委員会は 3 月前半の 2 週間の予定です。期間中に、BPW-NY 総会が行われますので、参加期間は、女性の地位委員会が始まる前の週の金曜日から BPW-NY 総会までの約 10 日間をご予定いただき、その後、女性の地位委員会の期間の最後まで参加されるかについてはご相談に応じます。

第 55 回女性の地位委員会のテーマは、「完全な雇用と相当な仕事への女性の平等なアクセスの推進を含む、教育、訓練、科学技術への女性と女児のアクセスと参加です」

募集対象 国際問題、女性問題、国連に関心を持つ大学生または 30 歳以下の女性、若干名 (3~4 名) 帰国後、報告書を日本 BPW 連合会に提出していただきます。また、ヤング BPW のメンバーとして BPW の活動に参加していただきます。

費 用 航空運賃・宿泊費・生活費は自己負担。但し、登録料及び BPW が行うイベント (夕食会・BPW-NY クラブの総会) 等への参加費一部は BPW で負担します。

応募方法 お問い合わせ及び応募は上記 e-mail にて受付けています。応募必要事項を記載の上、小論文を添付し送信願います。

応募必要事項：氏名・住所・連絡先 e-mail・電話・生年月日・所属 (学部 / 専攻) 又は職業・履歴 (高校卒業後の学歴 / 職歴)・滞在可能期間 (予定)。

小論文：応募動機および国際問題・女性問題・国連に関するあなたの意見を日本語および英文で述べて下さい (日本語で 1000 字前後、英文で 500 words 以内)。

メール件名 「UN-CSW インターン応募」と記載の事

宛先アドレス：csw2011@bpw-japan.jp

(日本 BPW 連合会インターン担当)

応募〆切 2010 年 9 月 15 日 (必着)

結果発表 2010 年 9 月 30 日 (e-mail にてお知らせします。)

7 つの特典

1. BPWI だから、CSW 本会議の傍聴の権利が取得できます。
2. 特別の通行証がもらえるため国連本部の会議場や職員食堂その他の施設に自由に入れます (一般不可)。
3. CSW の会議と並行して行われる NGO 主催のサイドイベントや女性問題に関するワークショップに参加、発言・質問もできます (一部有料)。
4. BPWI の説明会に参加して、CSW に意見を反映させるためのロビーイング活動を体験することができます。
5. BPWI 主催の各種活動 (ワークショップ、交流会、夕食会、ニューヨーク BPW の総会) などに参加して、各国の BPWI メンバーと交流がもてます (一部有料)。
6. 日本政府代表団主催の公式説明会に参加できます。
7. 世界各国の女性団体の方々との交流できます。



その他の詳細・申し込みはこちらから <http://www.bpw-japan.jp/japanese/index.html>

皆様の地域の大学、女性グループ、若い女性に募集をお知らせください。

APEC 女性リーダーズ
ネットワーク(WLN)会

APEC WLN会合は、APECに加盟する21エコミーの産業界、学界、行政、民間団体などの女性リーダーからなるネットワークです。本年は、APEC議長国である日本において、100以上の国内外の団体が運営に参加し下記のとおり開催されます。

記

主催：2010年APEC WLN運営委員会・内閣府男女共同参画局

日時：2010年9月19日(日) ~ 21日(火)

場所：京王プラザホテル

(東京都新宿区西新宿2-2-1)

テーマ：女性による新たな経済活動の創造 - 人・自然・文化を活かす -

プログラム：21エコミーの代表者、有識者による基調講演、パネルディスカッション、テーマ別分科会、ほか女性関連団体等の活動展示、文化イベント、エキスカッションなど約60のイベントが予定されています。

一般参加者申込 受付中

公式サイト：

<http://www.apecwln2010.jp/>

日本 BPW 連合会は、APEC WLN の全体会合のシンポジウムを担当します。

松原理事長が企画委員として、平松国際委員長が実行委員として参画しています。シンポジウムにはBPW インターナショナルからエリザベス・ベンハム会長が出演されます。

日本でされる国際会議。楽しいイベントも盛りだくさんです。BPW 会員の皆様、ふるってご参加ください。

会報 41 号広告掲載一覧表

ご協力ありがとうございました

クラブ	掲載名	頁	金額
札幌	BPW 札幌クラブ	40	30,000
旭川	BPW 旭川クラブ	41	30,000
苫小牧	BPW 苫小牧クラブ	36	30,000
青森	BPW 青森クラブ	42	30,000
仙台	BPW 仙台クラブ	32	30,000
山形	BPW 山形クラブ	39	30,000
米沢	BPW 米沢クラブ	48	30,000
東京	フチホリ(久家道子インプ'ロイダリ-)	43	15,000
東京	お好み焼き つばさ	100	15,000
東京	中野双葉印刷	52	30,000
東京	森の玉手箱教室	103	40,000
山梨	BPW 山梨クラブ	44	30,000
名古屋	BPW 名古屋クラブ	45	30,000
東海	BPW 東海クラブ	17	40,000
東海	高野医院	89	15,000
アイリス東海	BPW アイリス東海クラブ	46	30,000
岐阜	BPW 岐阜クラブ	33	30,000
京都	BPW 京都クラブ	47	30,000
大阪	BPW 大阪クラブ	38	30,000
神戸	BPW 神戸クラブ	34	30,000
和歌山	BPW 和歌山クラブ	表2	40,000
香川	BPW 香川クラブ	49	30,000
福岡	BPW 福岡クラブ	35	30,000
北九州	BPW 北九州クラブ	50	30,000
長崎	BPW 長崎クラブ	51	30,000
長崎	長崎県女性医師の会	79	30,000
	女性医療ネットワーク	68	30,000
	JWLI 事業	94	40,000
			835,000

CSW インターン募集中！

詳細・申し込みは：<http://www.bpw-japan.jp/japanese/index.html>

編集後記

日本 BPW 連合会の広報担当になっての初仕事。ニュースレター発行に当たっては、関係者皆様方に変なお世話になりました。皆様のご協力に感謝です！今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます（やなぎしたまちこ）